

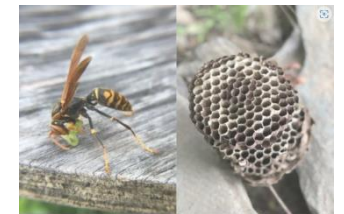
●第1回 メダカとミツバチの観察会

ハチの種類 日本 4000 種 世界では 20 万種

日本では人を刺す代表的なハチがスズメバチ、アシナガバチ ですが、ミツバチは比較のおとなしい性格で、人を刺すことは滅多に無く、敵対行動をしなければ攻撃的な行動はしてきません。ニホンミツバチはセイヨウミツバチよりも小さいです。5 月 18 日に見学していただくのはニホンミツバチです。いま見学会の参加者の募集をしています。22 日現在の参加申込者は 3 家族 6 名となっています。10 家族まで余裕がありますので至急申し込んでください。締め切りは 5 月 5 日としています。参加希望者が多数の場合は抽選を 5 月 6 日に行い、直ちに当落をメールでお送りいたします。お分けできるのは自然界には生息していない「シロメダカ」です。放流をしない事を約束していただけることを条件にしています。宜しくご参加ください。申込先は fddb257@yahoo.co.jp です。氏名・住所年齢又は学年・電話番号の記入をお願いします。



スズメバチ



アシナガバチ



ミツバチ

●第30回通常総会 議案書送付

いよいよ第 30 回通常総会が 4 月 27 日(土)京田辺市立中央公民館で開催いたしますので、社員の方にはぜひご出席をお願いいたします。この会議は里山の会の最高決議機関ですので、成立条件が社員の過半数の出席となっていますのでよろしくお願い致します。活動報告では京都府が絶滅の恐れのある生物としていているヤマトサンショウウオ第 1 の生息地で発見して以来、万一に備えて第 2 の生息地の発見を最大の課題として位置付けて努力を続けてきましたが、第 2 の生息地を発見できたことが最大の成果でありました。また木津川希少種調査業務のうち最も苦労してきたのが集草作業で、同志社大学サッカー部ボランティアの有志延べ 45 名が 4 日間の支援で年内に完了できたことが誇れる出来事でありました。しかし、一方では予想しなかった人身事故も発生する出来事を乗り越えてきた 1 年でした。そして、イベント参加者数は 2022 年度は 2,072 人でしたが、2023 年度は 1,777 人へと減少しました。

決算では 7,734,883 円の収入を確保し、9,833,296 円の支出額となり、赤字運営(2,098,413 円)になりました。イレギュラーな支出があったとはいえ、数字としてかなり厳しい 1 年であったことが見えてきます。より有効的で堅実な運営に努める必要があります。

●第2の生息地ヤマトサンショウウオ現地調査を実施

厳しい 1 年でしたが、調査観察の継続の中でヤマトサンショウウオの第 2 の生息地で 3 月 19 日に足元で見つけられ卵嚢と成体が同時に確認されました。現在第 1 の発見地(成体確認)にたどり着くためには 10 年が必要でした。この時から万一の予防対策として第 2 の生息地の発見と保護地の確保が桜谷保之先生から強調されてきました。2017 年から数えて 7 年目に発見出来ました。しかしかなり厳しい環境ですので、どのようにして生息地を維持管理をしていくのが良いのか対応策に頭を悩ましてきました。農園開発前には稲作田圃であった田圃と農業用水のため池が浅くなって、周囲に竹藪が進出し、湿地化し、小川が流れて適正な生息地化してきたのではないかと考えられます。夏の時期には乾燥してしまう場合も考えられます。集まってくる水も繁茂する竹によって流下しなくなることも推測されます。また「イノシシのぬた場」も付近に発見されています。こうした諸条件を観察したままに出し合ってみてこの場所の環境条件を整理しなければと思います。

ご指導をいただいていた桜谷保之先生が 5 月 7 日～11 日。15 日から 19 日にご来場いただけるとの連絡を受けましたので、日程調整をして現地調査を行いますので、皆さんの都合の良い参加日時を

ご連絡ください。集合場所は京田辺市普賢寺地域の水取の里山農園教育棟にさせていただきます。参加希望者はメールで氏名・住所・電話番号で申し込んでください。参加者の皆さんで観察・調査チームを結成したいと思います。

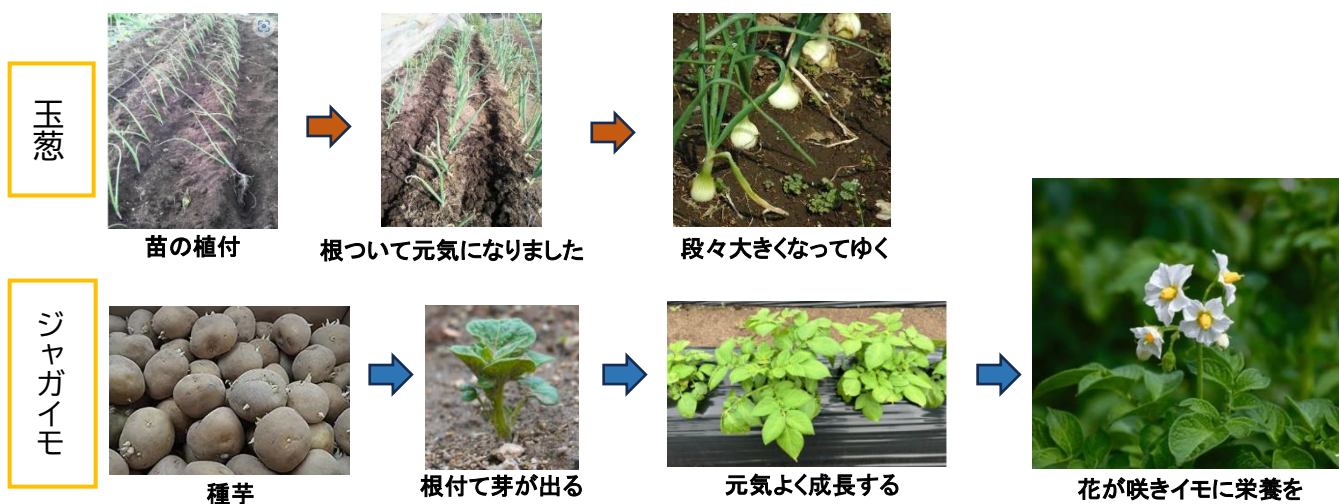
●第1の生息地でヤマトサンショウウオの幼生が見つかる 一時大きな心配

先の調査で第1の生息地での観察で全くヤマトサンショウウオの幼生姿が見られなくなってしまったとの報告が事務局会議でされました。これまで成体が初めて発見されたところでの出来事です。昨年の異常な高温で影響を受けてしまったのかと心配していましたところ、4月16日に幼生が5匹確認できました。写真撮影にも成功したとの連絡が金田さんから届きました。私たちは植物に関心があって野山を歩きまわることを楽しみにしてきた者の集まりであって、たまたまオオムラサキやヤマトサンショウウオや貴重な植物に出っただけでした。意識的に強く関心をもった保全団体の活動を目的にした組織でありませんでした。あまりにも貴重なものですから、それを大切にしなければならぬ責任が生じてしまった組織なのです。今回の出来事で再発見できたことは心から良かったと思っています。発見していただき連絡を下さった金田さん有難うございました。

●いよいよ大型連休目前

気象庁は20日、今夏(6~8月)の長期予報について、全国的に平均気温が平年より高くなる見込みと発表しました。高温をもたらす条件が重なった場合、観測史上最も暑くなった昨夏並みか、それ以上になる可能性もあるということです。同庁によると、「赤道付近の海面水温が高くなるエルニーニョ現象の影響がインド洋まで及び、日本の南の高気圧の気流に乗って日本列島に暖気が流れ込む見込みだ。昨夏は台風が少ないなど気温が上がる要因が続いた。早めの熱中症対策をしてほしい」と呼びかけた。とありました。

●里山農園の12月9日に玉葱 300本を植付ました。そしてジャガイモは3月20日に約200個の種芋を4畝に植え付けました。その後の成長はこうになりました。



●今年は結成28年 結成30周年まで2年 記念事業の提案を

結成25周年記念には これまでの活動記録集を写真と年表で編集しました。以下里山の会を運営を担っている理事はほとんどの人が80歳を超えている人たちが中心で、おそらく10年後に存在できないかもと想像できます。こう考えるとこの30周年記念は大変重要な節目となってきます。ですから結成30周年事業として記録に残る事業(仕事)をしっかりと考え出さねばなりません。祝賀会や記念誌といったものは当然ですが会員の皆さんからぜひ記念事業としてふさわしい取組をご提案下さい。